第十五講　実践演習(5)『古本説話集』

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

今は昔、*長能（ながたう）、*道済（みちなり）といふ歌詠みども、[1]いみじう挑み交はして詠みけり。長能は、蜻蛉の日記したる人の兄人（せうと）、伝はりたる歌詠み、道済、信明（さねあきら）といひし歌詠みの孫にて、いみじく挑み交はしたるに、*鷹狩の歌を二人詠みけるに、長能、

あられ降る交野（かたの）の御野（みの）の狩衣（かりごろも）ぬれぬ宿かす人しなければ

道済、

ぬれぬれもなほ狩りゆかむ*はしたかの上毛（うはげ）の雪をうち払ひつつ

と詠みて、おのおの「我がまさりたり」と論じつつ、*四条大納言の許（もと）へ二人参りて、判ぜ[A]させ奉るに、大納言のたまふ、「ともによきにとりて、[2]あられは、宿借るばかりは、いかで濡れむぞ。ここもとぞ劣りたる。歌柄はよし。道済がは、さ言はれたり。末の世にも集などにも入り[B]なむ。」とありければ、道済、舞ひ奏でて出でぬ。長能、物思ひ姿にて出でにけり。さきざき何事も、長能は上手（うはで）を打ちけるに、この度は本意（ほい）なかりけりとぞ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

春を惜しみて、*三月小なりけるに、長能、

　心憂き年にもあるかな二十日あまり九日(ここぬか)といふに春の暮れぬる

と詠み上げけるを、例の大納言、「春は二十九日のみあるか」とのたまひけるを聞きて、[3]ゆゆしき過ちと思ひて、物も申さず、音もせで出でにけり。さて、そのころより、[X]例ならで重きよし聞き給ひて、大納言、とぶらひにつかはしたりける返り事に、「春は二十九日あるか」と候ひしを、[Y]あさましき僻事(ひがごと)をもして候ひけるかなと、心憂く歎かしく候ひしより、かかる病になりて候ふ也。」と申して、ほどなく失せにけり。

「[4]さばかり心に入りたりしことを、よしなく言ひて。」と、後まで大納言はいみじく歎き給ひけり。あはれに[Z]すきずきしかりけることどもかな。

（『古本説話集』より）

（＊注）長能…藤原長能。平安時代の歌人。
道済…源道済。平安時代の歌人。
鷹狩…鷹と犬を用いて、鳥を捕る狩。
はしたか…狩に使う鷹。
四条大納言…藤原公任。平安時代の歌人で、この時代を代表する学才の持ち主であった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三月小…陰暦で二十九日ある月を「小」、三十日ある月を「大」という。

問一　二重傍線部Ａ「させ」Ｂ「なむ」について、文法的説明が同じものを、次の中からそれぞれ選べ。

Ａ「させ」

ア　かえり入らせ給はむ事はあるまじくおぼして、しか申させたまひけるとぞ。

イ　この帝、貞観九年丁亥五月五日、生まれさせたまふ。

ウ　この宮に御覧ぜさせむとて、『三宝絵』は作れるなり。

エ　「小さきはあへなむ」と、おほやけも許させたまひしぞかし。

オ　王威の限りなくおはしますによりて、理非を示させたまへるなり。

Ｂ「なむ」

ア　よそ人にてまじらひたまはむ、見ぐるしかりなむ。

イ　その薬食ひたる人は、かく目をなむ病む。

ウ　よひよひごとに、うちも寝ななむ。

エ　さあらむ所に、一人往なむや。

オ　「こと出で来なむず、いみじきわざかな」とおぼしたり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線部X「例ならで重きよし」、Y「あさましき僻事」、Z「すきずきしかりけること」の本文中における意味として最も適切なものを、次の中からそれぞれ選べ。

X「例ならで重きよし」

ア　今までにないほど落ち込んでいること
イ　以前の出来事以上に憤っていること
ウ　投獄され重罪に処せられること
エ　病気になり状態が非常に悪いこと
オ　前代未聞の失敗で気後れしていること

Y「あさましき僻事」

ア　あきれるほどの失態　　イ　浅はかに見える仕返し
ウ　前後の見境のない愚行　　エ　おごり高ぶった悪事
オ　昔を驚かせるいたずら

Z「すきずきしかりけること」

ア　過ちに対し意固地になりすぎたこと
イ　風流の道に熱心であったこと
ウ　皆が興ざめに感じてしまったこと
エ　和歌の道にはそぐわなかったこと
オ　過ちに対し清廉潔白であったこと

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　傍線部１「いみじう挑み交はして詠みけり」とあるが、長能と道済の関係の説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　鷹狩の歌の勝負には長能が勝ったが、以前の勝負では道済の方が優勢であった。
イ　鷹狩の歌の勝負には道済が勝ったが、以前の勝負では長能の方が優勢であった。
ウ　鷹狩の歌の勝負には長能が勝ったように、以前から長能の方が優勢であった。
エ　鷹狩の歌の勝負には道済が勝ったように、以前から道済の方が優勢であった。
オ　鷹狩の歌の勝負も互角であったように、普段から互角の勝負をくりひろげていた。
カ　鷹狩の歌の勝負では互角であったが、以前の勝負では道済の方が優勢であった。
キ　鷹狩の歌の勝負では互角であったが、以前の勝負では長能の方が優勢であった。

問四　傍線部２「あられは、宿借るばかりは、いかで濡れむぞ」を現代語訳せよ。

問五　傍線部３「ゆゆしき過ち」とはどのようなことか。最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　三月は小の月であるにもかかわらず、長能が三十日まである意の歌を詠んでしまったこと。
イ　四月から本格的に春になると思った大納言が、「春は二十九日に暮れるはずがない」と批判したこと。
ウ　まだ九日残っているにもかかわらず、長能が三月の終わりを惜しむ歌を詠んでしまったこと。
エ　歌の中で「二十九日」が強調されていたので、大納言が春は一日で終わると解釈してしまったこと。
オ　春は三ヶ月であるのに、長能が二十九日しかないように誤解される歌を詠んでしまったこと。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　傍線部４「さばかり心に入りたりしことを、よしなく言ひて」といった大納言の心情として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　長能の苦しみの原因がわからないため、自身の和歌の評価が適切だったか顧みている。
イ　長能がどれほど和歌に一途であったかを十分に理解していなかったと悔やんでいる。
ウ　長能が二度も和歌を酷評されたことを恨みに思っていたのだとわかり、反省している。
エ　長能の和歌の真意を手紙ではじめて知り、自分の評価が至らなかったと恥じている。
オ　長能は和歌の失敗が原因で死んだと知ったが、その苦しみが理解できないでいる。

問七　波線部「蜻蛉の日記したる人」とは誰のことか。次の中から選べ。

ア　阿仏尼　　イ　菅原孝標女　　ウ　和泉式部
エ　建礼門院右京大夫　　オ　藤原道綱母

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十五講　復習問題

①「その頃より、例ならで重きよし聞き給ひて…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　体調がすぐれず　　イ　引きこもって
ウ　予想と違って　　エ　うち沈んで

②次の傍線部ａ・ｂの助動詞の意味として最も適当なものを、後の中からそれぞれ選べ。

判ぜ[a]させたてまつるに…
出で[b]にけり。

ア　推量　イ　使役　ウ　断定　エ　完了　オ　尊敬

ａ＝　　ｂ＝

③「集などにも入りなむ。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　係助詞
イ　終助詞
ウ　動詞の一部＋推量の助動詞
エ　強意の助動詞＋推量の助動詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「我が僻事によりて恥がまし。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　私の最低限の要求
イ　私がしでかした間違い
ウ　私の身に起こった不都合なこと
エ　我が家にとっての不運なできごと

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十五講　模範解答

問一　A ウ　B ア
問二　X エ　Y ア　Z イ
問三　イ
問四　あられは、宿を借りるほど、どうして濡れるだろうか、いや、濡れない。
問五　オ
問六　イ
問七　オ

〈現代語訳〉

今となっては昔のことだが、藤原長能、源道済という歌人たちが、たいそう競い合って（歌を）詠んでいた。長能は、『蜻蛉日記』を書いた人の弟で、代々続いた家柄の歌人で、道済は、信明といった歌人の孫で、たいそう競い合っていたが、鷹狩りの歌を二人が詠んだところ、長能が（詠んだ歌は）、

あられ降る…＝霰が降る交野の御野で鷹狩りをしていると、蓑を借りることができず狩衣が濡れてしまった。雨宿りの場所を貸してくれる人もいないので。

道済が、

ぬれぬれも…＝濡れながらもやはり鷹狩りを続けて行こう。はしたかの上羽に降りかかる雪を払い落しながら。

と詠んで、二人とも「自分のほうがすぐれている」と論じ続けて、四条大納言のところへ二人で参上して、判定をしていただいたところ、大納言がおっしゃるには、「どちらもよい歌であるが、あられは、宿を借りるほど、どうして濡れるだろうか、いや、濡れない。この点が劣っている。歌の品格はよい。道済の歌は、道理にあう言い方をしている。将来、勅撰集などにもきっと入るだろう。」とおっしゃったので、道済が、（嬉しくて）舞い奏でて退出した。長能は、物思いに沈む姿で退出した。これまでは

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

何事につけても、長能が上回っていたが、今回は不本意であったということだ。

春を惜しんで、旧暦三月が小の月であった時に、長能が、

心憂き…＝嘆かわしい年であることよ。まだ二十九日だというのに、春が終わってしまうとは。

と詠み上げたところ、あの四条大納言が、「春は二十九日間だけなのか（、いや、三ヶ月もある）」とおっしゃったのを聞いて、重大な過ちをしてしまったと（長能は）思って、何も申し上げず、そっと退出した。そして、その頃から、（長能が）病気になり状態が非常に悪いことを（大納言が）お聞きになって、大納言が、見舞いに使者をお遣わしになった返事に、「『春は二十九日間だけなのか』とございましたので、あきれるほどの失態をしてしまったことでございますなあと、情けなく嘆かわしく思いました時から、このような病気になってしまったのです。」と申し上げて、間もなく亡くなった。

「それほど心を打ち込んでいたことを、配慮なく言って（気の毒なことをしてしまった）。」と、後々まで大納言はたいそうお嘆きになった。しみじみと風流の道に熱心であったことよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十五講　解答解説

〔解説〕

① 「例ならず」は、直訳だと「いつもと違う」だが、そこから「体調が悪い・病気だ」という意味もある。こちらの「体調不良」の意味が大事。後ろで「重きよし」とあることからも、「重病」であると考えられることから、正解はア。

② a 上が、サ行変格活用動詞「判ず」の未然形。したがって、傍線部は助動詞「さす」の連用形。真下が「たてまつる」で尊敬語ではないので「使役」。よって、正解はイ。

b 上の「出で」は、ダ行下二段活用動詞「出づ」の未然形か連用形と考えられる。未然形に付く「に」はないため、連用形。連用形＋「に」は完了の助動詞「ぬ」。もしくは、下が「けり」で、上が「死・往・去」ではないから完了の助動詞と考えても可。よって、正解はエ。

③ 上が、ラ行四段活用動詞「入る」の連用形。連用形＋「なむ」は、完了・強意の助動詞「ぬ」＋推量系の助動詞「む」である。よって、正解はエ。

④ 「僻事」は重要単語で、「間違い」「悪事」の意味。よって、正解はイ。

〔解答〕

①ア　②a イ　b エ　③エ　④イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。